

な　なんだろうのその先へ。その合言葉をもとに、0・1・2歳児への育児担当を行った園生活を安心して送れる環境を。幼児期には、子どもが自分で考え行動できる環境を。そんな檸檬会の保育を、保育士たちの得意なことや性格を尊重しながら実現に向けて進めています」と話す長谷川部長は、全国に56広がる檸檬会の保育園を巡り、これまでの保育経験を活かして保育士の育成に力を入れている。全員で同じ目標に向かって保育を進められるよう、頬が見える距離感を重視しているそう。「保育士は子どもの見本。一つひとつのお所作から園の雰囲気は伝わるものです。保育という正解のない仕事だからこそ、顔を合わせ、相談し合うことで、同じ方向を見つめられたらと考えています」さらに、仲間とともににより良い保育を目指すための、法人内SNS「ワークプレイス」や、姉妹園で同年齢を受け持つ先輩とチャットやビデオ通

話でつながるメンター制度など、園を越えたコミュニケーションの場が多い。新人・2年目・3年目・5年目研修、主任研修、園長研修など、姉妹園の同じ立場の職員と学ぶ機会も多く、園内に限らず、法人全体で成長し合う環境ができている。「職員には、自分たちが良い保育を行うためにどんな工夫をしているか、園内外（※檸檬会内の園に限る）に自信を持って発信してほしいのです。それを見た人が、そのアイデアを取り入れたり、刺激を受けてまた新しいアイデアを生んだり…そして輪が広がり、さらに良い保育へつなげていきたい。それが同じ法人の仲間と一つの目標に向かって挑戦していく大きな意義になると思うのですよね」と青木副理事長。子どもの生きる力を育むため、園を越え、地域を越え、保育士一人ひとりが手を取り合い、より良い保育を目指す。そんな檸檬会の輪は、今後もますます広がっていくだろう。

現場の声



同じ立場の 先輩といふ心強さ



株式会社のメンター制度は少し異例、園内の先輩だけでなく、姉妹園の同じ年齢を受け持つ先輩がメンターとしてサポートしてくれます。2歳児には2歳児ならではの悩みや疑問があるので、同じ立場の先輩の存在がとても心強い！園内の温かい先輩たちだけでなく、姉妹園にまで仲間がいることで安心して保育ができるで

檸檬会の制度とは

みんなで紡ぐ より良い職場環境

檸檬会の 保育とは

生涯消えることのない 「生きる力」を育むこと



イモンド元住吉保育園
2019年4月入職
東京都市大学 卒業

レイモンド元住吉保育園
主任保育士
聖園学園短期大学 卒業

新井 真由未
Mayumi Arai

新卒1年目。「実習等で一斉保育を経験中「もう少し待てたら…」という間隔が何度もあって。そんな時、檜樽会の「なんだらうのその先へ」というモットー、子どもの主体性や自立・自律心を大切にする保育を知り一目惚れ。先日、1歳さんがズボンを自分で履いている様子に感動し、檜樽会に決めて良かったと再確認しました」とのこと。

樺樽会が目指す子ども主体の保育、レイモンド元住吉保育園・園長の人の柄と思いに惹かれ入職。保育士一人ひとりがアイデアを出し、自分らしく保育ができるよう「否定をしない」「1つの正解を出すではなく一緒に考える」を心がける主任保育士。レイモンド元住吉保育園の温かい気さくな雰囲気を生みだす柱の1人。一児の母。

袁

園 内でも、子どもも自らが学ぶ姿を育む保育を実践する檸檬会。「私たちの保育は、子ども自らが主となり遊ぶ中で遊びとなっていく保育。保育士は、それを見守り支える存在です」と話すのは副理事長の青木さん。「そのためには、子どもが夢中で遊び込むことが大切ですが、言われてやることよりも『やつてみたい』と自分で選んだ方が、自然と集中できるもの。また、子ども自身が選ぶ園生活で育まれる『自分で考える力』も現代に必要な力です。子どもの主体性や自律心を伝えることを大切に、僕たちから『しないさい』と指示を出すのではなく『やりたい』のきっかけとなる探究心や興味を見い出し、より発展していくよう導いています」

檸檬会の保育全体を見守る長谷川部長はこう話す。「子どもが各自のやりたい遊びを選ぶ園内の様子から自由保育と捉えられることもありますが、実は少し違っているのですよ

子ども自身が選べる環境を作るため、コーエー保育を取り組んでいる檜原会。「子どもがただ自由に過ごせば良い」という訳ではなく、より学びを発展させるには、動と静のバランスよく過ごすためには…と、保育士が日々ねらいをもち、子どもたちの興味や関心を見つめながら環境作りに工夫を重ねています。子どもたちが主体的に過ごすことで学びや遊びが自然と発展していくよう、環境設定を行う。難しさもありますが、相談し合い、より良い保育を目指しています」そんな保育の基本になるのは、安心と安全だという。安全な環境の提供はもちろん、人や空間の安心感もこだわっている。「大切なのは、子どもを愛する心。そして笑顔と所作です。ごみがあれば拾う、訪問者へ挨拶をする。みんなの小さな気配りが温かい雰囲気を生み、安心につながっています」そんな温かい空気で、子ども主体の保育を行っている。

驚いた子ども主体
共に成長する喜び



5



心奪われた保育

一人ひとりを尊重する保育の姿勢に惹かれて、櫻櫻会に入職した私。「なんだろう」「やつてみたい」と興味を持った子どもにすぐ正解を教える手を貸すのではなく、子ども自身の挑戦過程を見守り、保育をしています。その結果、先日、1歳児が自分でズボンを履けて…感動!これからも子どもを想かさず「一人ひとり丁寧に寄り添い発達段階を見据えながら、